

株式会社 吉見屋

入院生活を快適に  
ナースコールが減るテレビシステムで  
喜びの商売をめざす



病院内のデザインに合わせ、テレビシステムと病室内家具を一貫生産している

ハード面とソフト面  
双方をつくりだす  
お客様目線が原点

入院生活を送ったことのある人なら誰しも見た事のある、課金制のテレビシステム。時間を気にしながら視聴するテレビは、本来の意味での「娯楽」ではなかったのかもしれない。そこに、二石を投じたのが吉見屋だ。

同社が開発した『ナースコールが減るテレビシステム』は、従来の時間的制限のある「度数式」ではなく、4日間、視聴し放題という「定期券式」を採用。結果として、視聴時間が長くなり、「さびしいからナースコールをした」という患者が激減した。ほんの少しの発想の転換が、入院患者、病院側双方に有利に働いたのだ。

もともと、ハードの面で入院時のテレビレンタル業を行っていた同社。時代の変化とともに、課金システム自体のソフト面を製造するに至った。そのシステムの根源を覆すことになったのが、現社長が事故で入院した際に発見した「お客様目線」だ。それが、「定期券式カードシステム」を実現させた。先代からも厳しく言われていた、商売の基本、原点である。



病室、病棟によりさまざまな『床頭台』を作製。数センチ単位のカスタマイズが、大きな快適性を生む

お客様目線に回帰したことが転機となり、多くの病院で採用されることとなった。現在では、放映するプログラムもプロデュース。高齢の方々が楽しめる放送番組を提供し、『回想法』における認知症対策にも功を奏しているという。

ユニバーサルデザインで  
快適空間を演出

娯楽提供というソフト面を提供すると同時に、病室には必要不可欠の家具『床頭台』も製造。徹底的なユニバーサルデザインを採用し、病院の構造に合わせて数センチ単位で全てをカスタマイズする。製造材料ありきでものづくりをする従来の家具では、既定のサイズしか製造できない。それでは本当の快適空間は得られない。収納、扉の金具、引き出し式の冷蔵庫、テーブルの広さ等、看護師の意見、患者の意見を徹底的にリサーチ。延べ五万人におよぶ意見を収集し、各病室へカスタマイズが可能となるビジネスモデルを構築した。また、特筆すべきは同社がマーケットリサーチのターゲットを、明確に細分化し行っている点だ。空間の居心地を重要視する女性、入院患者の年齢層、看護師の傾向など、ピンポイントで行うリサーチとそれに対するプレゼンテーションには、金社長のセンスが光る。

今後、患者側には『利便性と快適性の向上』、病院側には『コストダウン』を掲げ、ソフト開発で培った先端技術を駆使し、さらにより良いサービスを提供し続けたいという。患者、病院、業者の三者が喜べる「三方両得」をめざし邁進する吉見屋。航空機関連の事業もスタートさせ、大手航空会社への納入実績もあり今後の展開が楽しみである。

**Company Profile**

株式会社吉見屋

住 所 〒557-0033 大阪市西成区梅南2-3-24  
TEL 06-6661-4438  
FAX 06-6651-3915  
創 業 昭和13年4月  
資本金 1,000万円  
従業員 12名  
代表取締役 金 炫修

■主な事業内容  
病院向けカードテレビシステムの設計・製造・運営

■主な取引先  
大学病院、大手総合病院、大手航空会社 等

大阪22

<http://4438.tv>

他社には負けない

当社のもづくり  
セールスポイント

Change / Challenge / Chance で  
快適空間をトータルサポート

代表取締役 金 炫修 さん

病院等医療施設に、テレビというエンターテインメントと共に良い空間を提供しています。空間デザインはもちろん、年配者をはじめ、誰もが使いやすわかりやすいシステムも開発。ハード・ソフトの両面からサポートさせていただきます。